

平成30年度通常総会報告

長崎県技術士会 会長 山口和登

6月2日諫早観光ホテル道具屋にて、平成30年度通常総会を65名の会員出席（欠席者の委任状は40名）のもと開催し無事終了しました。その後、日本技術士会長崎県支部年次大会、そして長崎大学非常勤講師の諸星彰三氏（工学博士）、（株）篠崎技術士事務所の篠崎信行氏（技術士：機械部門）を講師に招いてCPD研修会を開催しました。引き続き交流会を開催し盛会に終わることができました。交流会は、前回は47名の参加者がありましたが、今回は42名の参加者となりました。

ご協力ありがとうございました。

総会の議事内容については総会参加会員各位には周知済みでありますので、ここでは不参加会員を考慮して総会の状況をご報告申し上げます。

総会は川村副会長の総会成立（会員総数の5分の1以上の参加で成立）宣言の後、第1号議案から第5号議案の審議及び報告事項の説明が行われました。



写真-1 総会の様子

1. 総会議案

第1号議案：平成29年度事業報告

原案の通り承認

29年度の主な実績は、①役員会の年6回の定例開催 ②6月の総会時及び9月と1月の研修会（年3回）、5月、10月の現場見学会（年2回）の日本技術士会長崎県支部との共催による実施、長崎地盤研究会の勉強会・ジオラボの後援団体として年4回の研修会、年1回の現場見学会への参加 産業基盤維持管理技術研究会の講演会（年3回）見学会（年1回）への参加 ③機関紙の年4回発刊配信、会員名簿29年度版の作成（350部）会員及び関係機関に配布 ④会員の増強、平成30年6月現在の会員数169名（12名の新入会員）長期にわたる会費未納の会員の名簿登録抹消、会員都合による退会、逝去のための退会と新入会員が12名と多いにかかわらず、昨年から6名増の会員数となりました。 ⑤その他、公益社団法人長崎県建設技術研究センター主催の「ながさき建設技術フェア2017」の後援、NPO技術フォーラム懇話会後援及び長崎大学における技術士会による第3回講義の実施：受講大学生39名 などです。具体的には長崎県技術士会のホームページの活動状況報告を参照してください。

第2号議案：平成29年度収支決算、会計監査報告

原案通り承認

具体的な金額等はここでは省略しますが、議案書において周知した通りです。詳細は議案書をご参照ください。尚、議案書をお持ちでない方はお知らせ願えれば議案書を配信します。監事による会計監査は3/29に実施され、その結果が報告されました。

第3号議案：平成30年度事業計画（案）

原案通り承認

30年度の主な計画は、①総会及び役員会の定例開催 ②長崎県技術士会・日本技術士会長崎県支部共催の研修会の年3回開催、現場見学会の年2回開催 ③ジオラボ（長崎県技術士会後援）への年4回の勉強会参加、年1回の現場見学会参加、産業基盤維持管理技術研究会への年3回講演会、年1回見学会参加 ④機関紙の年4回の継続発刊配信、会員名簿の昨年同様の350部作成・配布 ⑤長崎大学との連携強化、学生を対象とした講義への講師派遣、他技術機関との連携 ⑥県技術士会の活性化：ホームページの更なる改編・充実を実行し、積極的な情報開示・会員募集、増員を図る等です。

第4号議案：平成30年度収支予算（案）

原案通り承認：具体的な金額はここでは省略しますが、総会時に提示した通りです。詳細は議案書をご参照ください。

第5号議案：長崎県技術士会役員

原案通り承認

今年度は役員非改選の年のため、昨年度同様の役員案が承認されました。但し、昨年大橋義美理事が逝去されたため、昨年より1名の減員で承認されました。なお、役員構成は長崎県技術士会の平成30年度版会員名簿及びホームページに掲載していますのでご参照ください。来年度は役員改選の年ですので、会員各位の積極的な役員への立候補をお願いいたします。

報告事項、その他

第3号議案で承認を頂いた、ホームページの更なる改編・充実・活用を図るため昨年度に長崎県技術士会情報配信局を新設し、更なる充実・活用をいたしました。

2. 日本技術士会長崎県支部年次大会

長崎県支部の年次大会は毎年支部長の年次大会報告を参照ください。

3. CPD研修会

2名の講師による下記の演題でCPD研修会を開催しました。

演題①：「長崎の産業技術の歴史と社会～世界遺産だけではない“次世代に残すもの”」

講師：長崎大学非常勤講師 諸星 彰三氏（工学博士）

演題②：「水熱処理技術を用いた下水汚泥の燃料化・堆肥化技術の紹介」

講師：（株）篠原技術士事務所 篠原 信之氏（技術士：機械部門）

各講師による講演終了後、活発な質疑応答が行われ、充実した研修会となりました。



写真-2 演題1の様子



写真-3 演題2の様子

4. 交流会

研修会終了後、ホテル内の別室で交流会を開催しました。新入会員 7 名、講師の諸星氏 篠原氏を含め 42 名が参加しての盛大な交流会となりました。交流会においては長崎県技術士会の名誉会員であられる福田光博氏の音頭のもと乾杯し、30 年度の役員、出席新入会員の自己紹介など会員相互の情報交換を行いました。最後は長崎県支部の毎熊支部長の発声のもと万歳三唱を行い、楽しい交流会となりました。



写真-4 交流会の様子



写真-5 交流会の参加者

以上総会報告を行いました。

(公社) 日本技術士会九州本部

平成 30 年度長崎県支部年次大会 報告

長崎県支部 支部長 每熊 元

梅雨の時期となり、蒸し暑い日が続きますが、県

技術士会、県支部会員の皆様におかれましては益々御健勝でご活躍の事と存じます。また日頃から技術士会活動にご協力頂き、感謝申し上げます。

県支部は今年で 5 年目を迎え、6 月 2 日 (土) 諫早観光ホテル道具屋において第 5 回年次大会を開催する事が出来ました。



写真-6 年次大会の参加者

今回の参加者は、年次大会には支部会員が 36 名、研修会には県技術士会会員を含めて約 62 名と前年度 (64 名) 並みの多くの皆様に参加頂き、研修会・交流会 (42 名参加) 共に盛会となり、感謝申し上げます。

I. 支部年次大会についてご報告。

1. まず、私の挨拶の中で、最近の情報として、①31 年度から試験制度の内容が変わり、必須科目の択一式が無くなり、全て記述式となる。②統轄本部より、研修会等の参加費 (資料代等) はある程度徴収するように指導があった。③5 年に 1 度の資格更新制度が数年後に実施される予定である。と報告。

2. 山口副支部長より、平成 29 年度活動経過として、①C P D 研修会年 3 回の開催 ②現地見学会年 2 回の開催 (共に県技術士会と共に開催) ③平成 29 年度の収支決算報告。

3. 松尾幹事より、統括本部・九州本部から交付

される年間活動費約 466 千円、参加費 78 千円、計 544 千円の収支決算監査報告。

4. 川村副支部長より、平成 30 年度の活動方針・事業計画として、①30 年度会員状況（正会員 90 名、準会員 29 名）②支部活動方針（会員の倫理啓発、資質の向上、品位の保持、技術士制度の理解と知名度・地位向上、技術士の活用促進、会員の増加、地域の発展・活性化に資する）③支部役員（前回と同じ）④事業計画について、CPD 研修会年 3 回の開催 ⑤現地見学会年 2 回の開催（共に県技術士会との共催）⑥統括本部・九州本部から交付される年活動費、参加費等の収支予算（約 626 千円）の報告。

5. 山口事務局長より、その他に①「長崎県における技術士登録者数は 380 名で会員数は 90 名で 24% に過ぎない。活動方針に会員増加を掲げているので前向きに検討下さい」とお願い②「今後の技術士制度の在り方について」等の説明。

なお、日本技術士会九州本部第 53 回年次大会は 5 月 26 日（土）に行われました。



写真-7 年次大会の様子

II. CPD 研修会・交流会については、県技術士会山口会長からの「総会報告」を参照ください。

長崎県支部は設立して今年で 5 年目となり、活動費となる予算も年ごとに少しずつですが増えて参

りました。

今年度も主な活動課題としましては、技術士の責務であります継続研鑽（研修会、現地見学会等）や皆様の顔合わせの場となります交流会を主に県技術士会と協力して活動して参りたいと考えます。不十分なところもありますが、皆様方のご理解とご協力をお願い致しまして年次大会報告とさせて頂きます。

平成 30 年度 日本技術士会九州本部長崎県支部 第 1 回 CPD 見学会報告

折田定良（建設）

平成 30 年 5 月 24 日（水）、長崎県支部第 1 回 CPD 見学会を三菱電機株長崎製作所のご好意により「オーロラビジョンの技術解説」をテーマに、毎熊支部長 以下 22 名の参加で開催しましたので報告します。

三菱電機株長崎製作所は 1923 年（大正 12 年）三菱造船株式会社長崎造船所の電気工場から独立し創業後、現在では、映像情報システム（オーロラビジョン）・冷熱システム（車両用空調装置）等の先駆者として、長崎県を代表する企業となっています。



写真-8 長崎製作所の説明

今回は、屋外の大型映像表示装置として、今では広く普及しているオーロラビジョン（海外における商品名：Diamond Vision）を通して、世界トップレベルを目指す企業の挑戦と郷土にかける想いを学ぶ見学会となりました。

1. 三菱電機(株)長崎製作所概要（施設営業課 松山 隆盛殿）

長崎県西彼杵郡で敷地面積 97,938m² を有し、従業員 380 名（関係会社を含む構内人員 1,690 名）により交通インフラとして空調装置、駅発車標、ETC 表示板、非常用発電装置、可動式ホームドアに加え、自社開発としては国内唯一の大型映像表示装置（オーロラビジョン）等を手がけています。現在はオーロラビジョンのシェアは国内一社のみながら世界で 40%、車両用空調設備では 70% のシェアとのことです。

2. オーロラビジョン概要（長崎支店 寺崎信夫殿）

オーロラビジョンは、船舶電気用品としてのマイクロプロセッサー開発およびクロスアセンブリ技術を活用して三菱電機(株)長崎製作所が初号機を 1980 年にドジャーススタジアムに納入したものです。当時はオイルショックにより船舶用電気品の需要が減少し、人員削減か配置転換かという状況の中、切羽詰ってゼロからスタートした開発であったようです。今では野球、サッカーのスタジアム、街中の廣告塔・各種イベント会場においてなくてはならないものとなっています。さらに、最近では国内外の競合他社の参入により、技術・コスト面の競争が激しくなっており、一層の技術開発のために尽力されています。



写真-9 オーロラビジョンの様子

3. 製品および技術（長崎製作所 飯尾 信哉殿）

オーロラビジョンの展開は第一次世代（単管 CRT）、第二次世代（複合 FMCRT）を経て第三次世代（LED ディスプレイ）の時代へ突入しており、LED 砲弾タイプ、面実装 3in1 タイプ等の導入により、LED 特有のギラつきを抑える技術、見る角度による色彩の変化をなくす技術、視認距離や用途に応じた表示画素ピッチを可能とする技術などが次々と開発され、様々なコンテンツ情報が迫力ある臨場感と共に演出されています。



写真-10 ショールームの見学

4. オーロラビジョン実像、ショールームの見学

工場メインゲートを入ると、社屋正面に見学者用にイメージアップを目的としたオーロラビジョンが設置されており、見学者を歓迎するメッセージが表示していました。通常は、従業員向けの作業効率向上や安全目標達成の意識向上を促すメッセージが表示されているとのことです。

また、ショールームには車両空調設備、駆ホイールドア、表示票、車外表示器、オーロラビジョンモジュール等が展示されており、長崎支部の見学者からは電気消費量、落雷・日射等に対する諸々の対策、視認角度などについて活発な質疑応答が交わされていました。



写真-11 オーロラビジョンの前で記念撮影

5. まとめ

カラー大型表示装置(オーロラビジョン)は2018年3月にIEEE(電気電子技術者協会 本部—米国)の「IEEE マイルストーン」に九州地区で初めて選定され、現在でも世界中の人々に映像で大きな役割を果たしていることが、高く評価されています。今後は、カラー大型表示装置を利用して、街中に居ながら郊外の緑地やせせらぎなど、環境の創出が可能となると話しをされていました。

造船不況を乗り越えて、オーロラビジョンが長崎で開発されたこと、長崎だからできたことに対して、敬意と称賛を贈りたいと思います。

(E-mail : hasiguchi@hasikan.com)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

1. 新入会員の紹介(4-6月役員会承認)

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A 会員	横山 知充	機械	無所属
A 会員	須田木 諭	建設	扇精光コンサルタンツ(株)
A 会員	林田 裕興	農林	内外エンジニアリング(株) 長崎営業所
A 会員	田添 智宏	建設	(公財) 長崎県建設技術研究センター
A 会員	久野 功	建設	(株)重野設計事務所 愛野営業所
A 会員	久原 正也	金属	三菱重工業(株)
A 会員	今井 亮	機械	三菱重工業(株)

2. 連絡

平成30年度版の会員名簿を各会員に送付していますが、記載漏れ、間違い、変更未処理等がありましたらお知らせください。原則的には会員からの申告を基に名簿を作成していますので、お知らせがなければ訂正処理ができません。今回の間違いの原稿はその都度修正しますが、会員名簿は次回平成31年度版で訂正することとなりますのでよろしくお願いします。

長崎県技術士会 情報配信局

配信担当者:古賀脩一朗 (株式会社長崎地研)

HP : <http://apren.jp/>

配信メールアドレス : nagasaki.apren@gmail.com

機関紙発行担当の連絡先

長崎県技術士会 理事 園田直志

sonoda_naoshi@icloud.com